



ロバート ワトソンさんによる 市民講座

「私の出会った 日本のかたち 日本のこころ」

7月1日:桂川町住民センターにて開催

はじめに

人それぞれの個性を、形(見た目)で決め付けてはいけません。見た目で決め付け、その人と接すると、その人はそういう人になります。見た目ではなく、その人の心を見て欲しい:

「形」と「心」

今でも日本人が、日本の伝統や形式を守っていることは、素晴らしいことだと思います。

しかし、そこにある「心」を忘れていように感じます。

「今までそうだったから」では、形骸化(けいがいか)だけしてしまいます。形は大切ですが、そこにある「心」がもつと大切だと、私は感じます。

文化の違い

現在、私は中学校のPTA会長をしています。ある会議で、私が提案すると「日本とアメリカではやり方が違う」と言われました。しかし、問題はそこなのでしょうか。目的は今の子どもたちに必要なやり方をしていくのが大事なことで、日本とアメリカといった文化の違いは関係ないと思います。

確かに、文化は異なれど、今の子どもたちのために必要なことに、文化の相違はさほ

ど関係ないかと思えます。

私が出会った同和問題

京都府のある地区を私が訪れたとき、この小学校の校長先生と話をする機会を頂きました。そこでも、なお、同和問題がなくなっていないようです。

校長先生は、先日実際にあった出来事を話してくれました。



和都村企画
ロバート・ワトソンさん

仲の良い友人の誕生会に、ある生徒だけ招かれなかったと言うのです。その生徒は、「どうして僕を呼んでくれなかったの」と友人に聞くと、こう答えたそうです。「お母さんが、〇〇君だけ呼んではいけないっていったから:」。

先生も、その子に何も声をかけることはできなかつたそうです。皆さんは、どう思いますか。

環境で子どもは育つ

ある国へ私が出かけたときのことです。その家庭の子どもたちは、お父さんが仕事から帰ってくると、満面の笑みで駆け寄り「お帰りなさい」と、あいさつをします。その子どもたちに両親のことを聞くと、すぐにこう答えました。「愛している。尊敬している。感謝している。そして、将来はお父さんのように、周りの人の役に立つ仕事に就きたい」。

これは「国の違い」だけでしょうか。子どもたちは、家庭の環境をそのまま反映して育ちます。その環境を作るのは大人たちです。今の日本、そして、皆さんの周りはどうでしょう。まだ、十分とはいえない環境かもしれませぬ。

心を受け入れてこそ「愛」

マザー・テレサの有名な言葉に「人間にとつてつらいのは、相手にされないこと」と、いうものがあります。つまり、愛情の反対は無関心であるということです。人には形ではなく、心を受け入れて接して欲しいと願います。

そして、人の役に立てるような子どもが育つ、大人や地域であつて欲しいと願います。